



# 奈良県感染症情報

平成 29 年 第 6 週( 2 月 6 日～ 2 月 12 日)  
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## インフルエンザ警報発令です！

### 今週の概要

- 小児科外来情報
- 保健研究センターだより 2 月 今シーズンのノロウイルス検出状況

### ❖ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ❖

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	インフルエンザ	23.26	(35.43)	➡	➡	➡	➡
2	感染性胃腸炎	2.97	(3.24)	➡	➡	➡	⬆
3	A群溶連菌咽頭炎	1.94	(1.29)	⬆	↗	⬆	⬇
4	流行性耳下腺炎	0.65	(1.41)	↘	↘	↘	⬇
5	咽頭結膜熱	0.50	(0.59)	↗	⬆	↗	⬇

発生状況： **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)  
 増減：過去5週間平均数と比べたときの変化 **⬆⬆**急増、**⬆**増加、**↗**やや増加、**➡**横ばい、**↘**やや減少、**⬇**減少

### ❖ 県内概況 ❖

**インフルエンザ警報発令中** インフルエンザの報告数は先週より減少しましたが、定点当たり報告数が終息基準値の「10」を下回るまで、警報発令状態は続きます。近府県でも減少傾向ですが、まだ流行は続くことが予想されますので、手洗いの励行、咳エチケットを心がけましょう。

流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)は、増減を繰り返しています。感染経路は、ウイルスの付着した手で口や鼻に触れてしまい感染する接触感染、患者のくしゃみなどに含まれるウイルスを吸い込み感染する飛沫感染です。タオルや食器の共有はしないように注意してください。

### ❖ 小児科外来情報 ❖

#### 北部地区(矢追医院)

インフルエンザの流行は、先々週を頂点に減少してきました。小学校高学年から成人に多く、小学校低学年と園児はまだこれからかもしれません。A型が大部分です。予防接種の有無による比率は1:2で例年と同様で、接種による効果は不明です。

感染性胃腸炎は10歳以上の方に少し見られる程度です。

流行性耳下腺炎が保育園児で流行が続いています。

#### 中部地区(岡本内科こどもクリニック)

インフルエンザは減少傾向。雪情報の厳寒にも増加はない様子。今冬は軽症傾向であった。

感染性胃腸炎は減少傾向であるが流行持続。

#### 南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

インフルエンザ流行中。大部分がA型。早期には抗インフルエンザ薬を投与しても高熱遷延例あり。インフルエンザ単独、細菌感染合併による肺炎など様々な場合がみられた。

一時おさまっていたノロウイルス胃腸炎が増加している。いずれも軽症～中等症で経過している。



❖ 定点把握感染症報告状況 ❖

平成 29 年 第 6 週 2 月 6 日 ~ 12 日

保健所別報告数	奈良県		北部		中部		南部		
	奈良市	郡山	中和(東)	中和(西)	内吉野	吉野			
インフルエンザ定点数	54	14	11	10	2	3			
インフルエンザ	1256 (23.26)	295 (21.07)	384 (27.43)	195 (17.73)	311 (31.10)	28 (14.00)	43 (14.33)		
小児科定点数	34	9	9	7	6	1	2		
RSウイルス感染症	16 (0.47)	3 (0.33)	2 (0.22)	5 (0.71)	6 (1.00)				
咽頭結膜熱	17 (0.50)	2 (0.22)	4 (0.44)	8 (1.14)	3 (0.50)				
A群溶連菌咽頭炎	66 (1.94)	8 (0.89)	5 (0.56)	2 (0.29)	50 (8.33)		1 (0.50)		
感染性胃腸炎	101 (2.97)	17 (1.89)	20 (2.22)	17 (2.43)	33 (5.50)	6 (6.00)	8 (4.00)		
水痘	7 (0.21)	6 (0.67)	1 (0.11)						
手足口病	5 (0.15)	1 (0.11)		1 (0.14)	3 (0.50)				
伝染性紅斑									
突発性発しん	13 (0.38)	2 (0.22)	2 (0.22)	4 (0.57)	5 (0.83)				
百日咳									
ヘルパンギーナ	1 (0.03)		1 (0.11)						
流行性耳下腺炎	22 (0.65)	7 (0.78)	5 (0.56)	8 (1.14)	2 (0.33)				
眼科定点数	10	3	3	2	2	0	0		
急性出血性結膜炎									
流行性角結膜炎	1 (0.10)				1 (0.50)				
基幹定点数	6	1	2	1	1	0	1		
細菌性髄膜炎									
無菌性髄膜炎	1 (0.17)		1 (0.50)						
マイコプラズマ肺炎	4 (0.67)				3 (3.00)		1 (1.00)		
クラミジア肺炎									
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	1 (0.17)		1 (0.50)						

❖ 全数把握感染症報告状況 ❖ ( )は保健所別内訳

1類感染症	
2類感染症	結核4件(奈良市3、中和1)
3類感染症	
4類感染症	
5類感染症	アメーバ赤痢1件(中和1) カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1件(郡山1) 急性脳炎1件(郡山1) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症1件(郡山1) 侵襲性肺炎球菌感染症1件(奈良市1)

❖ 第6週のトピックス ❖

◆黄熱について

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000124572.html>

※平成27年2月16日より桜井保健所と葛城保健所は統合され中和保健所となりました。  
旧桜井保健所分は中和(東)、旧葛城保健所分は中和(西)として集計しています。

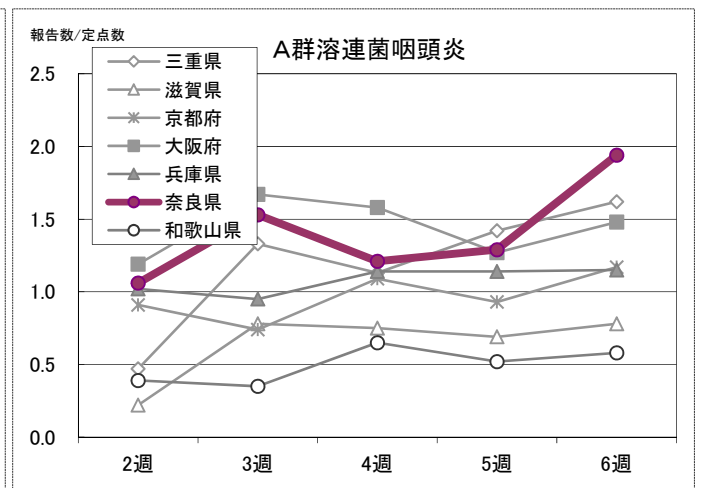
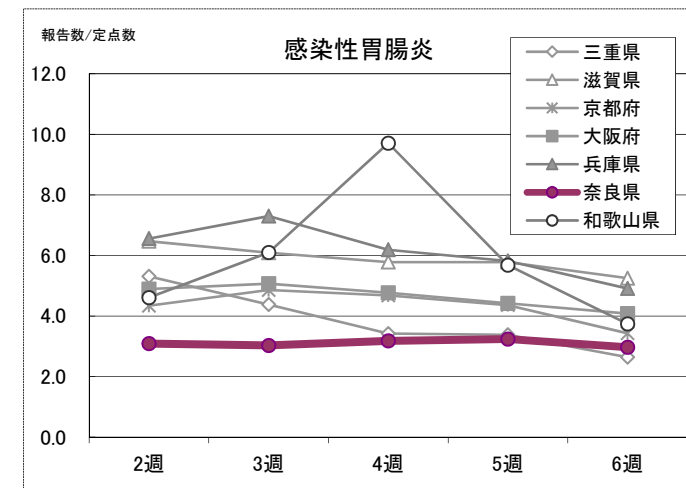
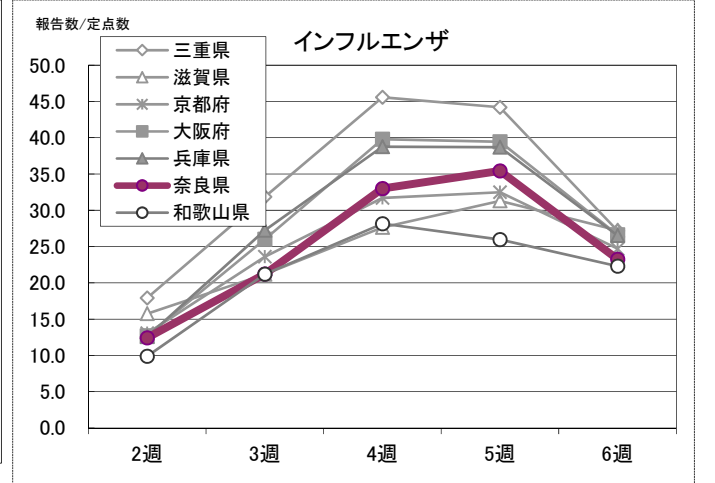
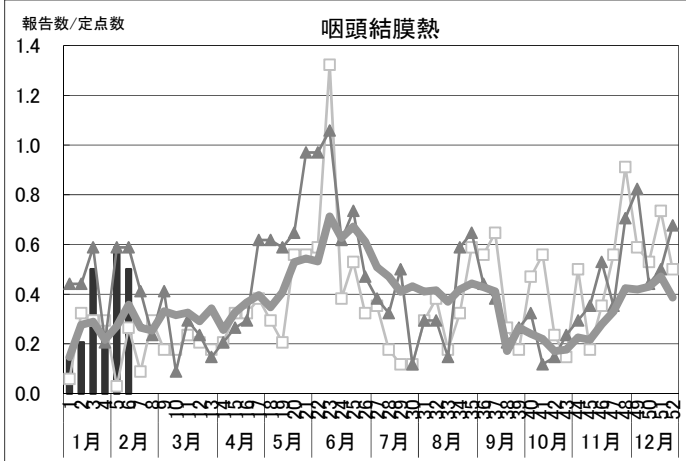
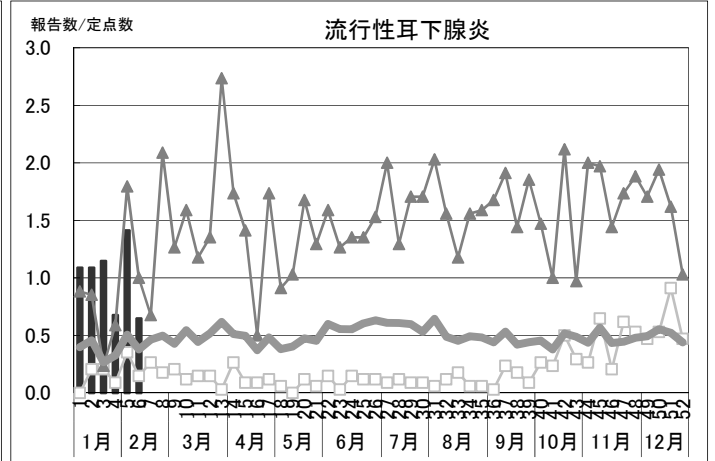
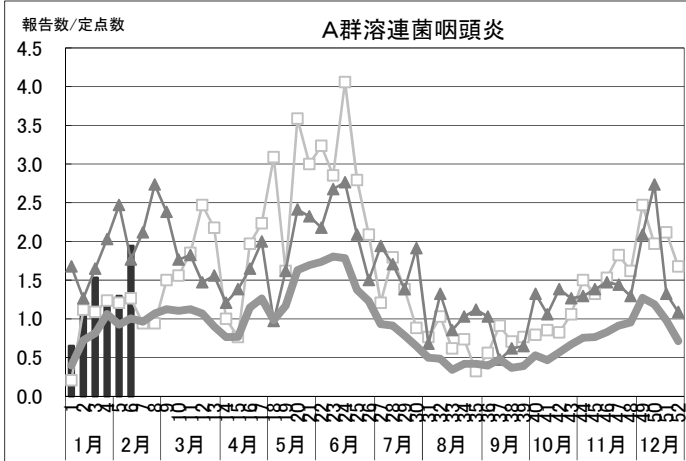
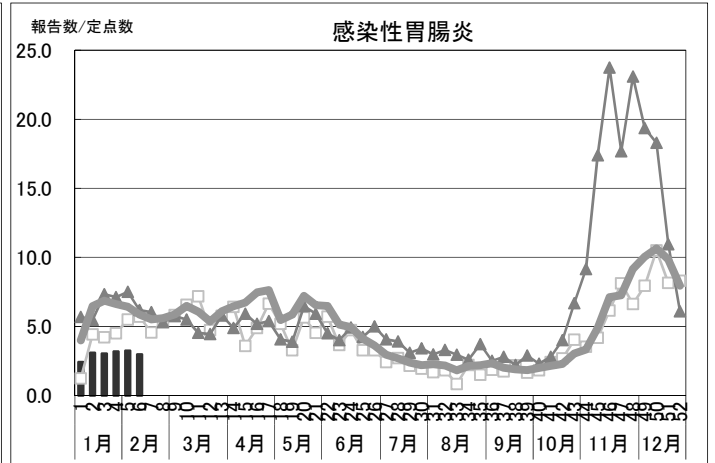
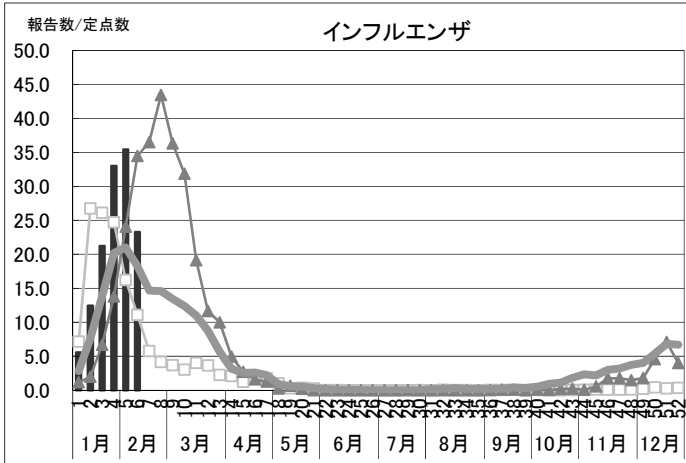
上段 : 報告数  
(下段) : 定点当たり報告数 報告数÷定点数

年齢別報告数

年齢区分	年齢	0-5M	6-11M	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-	合計	累計	
インフルエンザ	男	1		36	23	28	40	48	39	42	35	33	108	36	21	18	34	31	22	14	5	614	3614	
	女	1	4	21	30	31	40	27	49	49	33	17	105	27	35	36	44	34	23	23	13	642	3453	
RSウイルス感染症	男	1	1	4	1	1		2	1													11	97	
	女		1	3									1										5	79
咽頭結膜熱	男			4	1		1	1	2	1												10	34	
	女			2	3	1	1															7	40	
A群溶連菌咽頭炎	男			1	3	7	3	3	6	1	2	1	2	1								30	127	
	女			2	3	2	5	4	5	5	3	1	4		2							36	134	
感染性胃腸炎	男	1	2	5	11	2		3	7	3	1	3	12	2	9							61	347	
	女		3	2	1	4	3	6	2	2	1	1	2	5	8							40	262	
水痘	男			1		1		2		1		1										1	18	
	女																					6	31	
手足口病	男			2	2																	4	17	
	女		1																			1	16	
伝染性紅斑	男																						2	2
	女																							3
突発性発しん	男		3	4	1																	8	37	
	女		1	4																		5	46	
百日咳	男																							
	女																							
ヘルパンギーナ	男							1														1	3	
	女																							1
流行性耳下腺炎	男			1	1			1	2	2		1	1									9	101	
	女					2	2	2	2	1	1	2	1									13	105	
急性出血性結膜炎	男																							
	女																							
流行性角結膜炎	男			1																		1	16	
	女																							16
細菌性髄膜炎	男																							1
	女																							4
無菌性髄膜炎	男				1																	1	1	
	女																							
マイコプラズマ肺炎	男		1	2																		3	11	
	女		1																			1	11	
クラミジア肺炎	男																							
	女																							
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	男																							2
	女		1																				1	1

❖注目疾患の動向❖ 全て定点当たり報告数

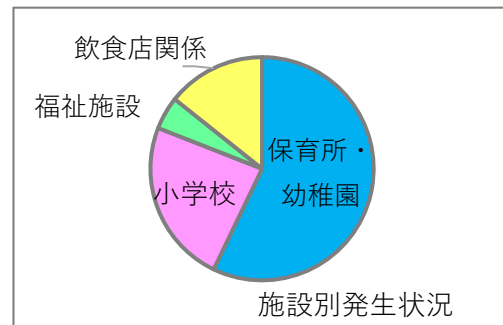
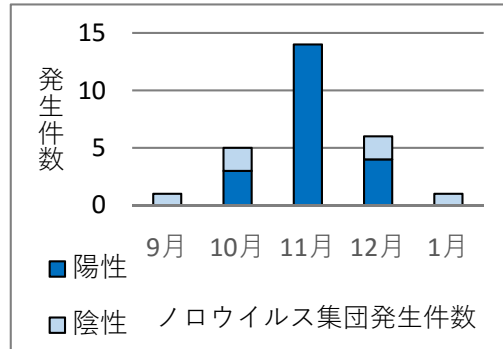
■ H29 ▲ H28 □ H27 〰 過去10年平均



## 今シーズンのノロウイルス検出状況

昨年11月にセンターだよりで、ノロウイルス GII.2 による集団発生が多数起きていることを報告しました。今回は、その後の解析結果について報告します。

今シーズン(2016年9月～)は、現在までに27例の集団感染、食中毒事例(疑い事例も含む)の検査を実施しました。そのうち21例はノロウイルス GII が原因であり、遺伝子型解析の結果、20例が GII.2 とわかりました(残り1例は解析中)。施設別の発生状況では、福祉施設や飲食店関係など成人間からの発生も一部ありましたが、保育所・幼稚園、小学校からの発生が多く、全体の8割を占めていました。国内での GII.2 の検出は、2007/2008～2013/2014 シーズンまで、比較的多く検出されていましたが、2014/2015 シーズンは、ほとんど検出がありませんでした。そのため、低年齢層は GII.2 に感受性を示す者が多かったと考えられます。



ノロウイルスの遺伝子型解析は、通常300塩基ほどの塩基配列を解析していますが、今シーズン流行した GII.2 については、解析領域を拡大し、およそ3000塩基の塩基配列の解析を行いました。得られた塩基配列について、近年他府県で検出された GII.2 を参照株とし、系統樹解析を実施した結果、これまでとは異なるクラスターを形成しました。また、茨城県や川崎市は、今シーズンの GII.2 は、これまでとは遺伝的性状が異なる変異株である可能性を示唆しており、本県で検出している GII.2 も同様の変異株である可能性が高いと考えられます。

ノロウイルスは、変異すると流行を引き起こし、社会に大きな影響を及ぼします。そのため、今後も迅速なノロウイルスの流行状況把握に努め、情報提供を行いたいと考えています。



◆IASR ノロウイルス等検出状況 <http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr-noro.html>